



洋書輸入協会会報

Vol. 26 No. 6 (通巻301号) 1992年6月

定 時 総 会 報 告

1992年度定時総会は5月14日(木)午後2.00から、学士会館(本郷)にて開催された。

正会員102社のうち、出席43社、委任状27社、合計70社にて総会は成立。その後の出席11社、賛助会員の出席は4社であった。

司会者、栗原氏(洋販)の開会のことばののち、海老原理事長(丸善)から大要次のような挨拶があった。

「昨年9月に洋書輸入協会創立50周年記念式典が催されたが、式典は来し方を懐古し、先達の苦労を偲び、これからの半世紀に向かって踏み出す決意を誓った場であった。50年後の洋書業界や出版業界がどうなっているか、書籍や雑誌がどのような位置を占めているか、過去50年間の何十倍もの変化を見せるであろうことは想像に難くない。しかし私たちにとって太陽の輝く時代であることを願ってやまない。

さて、21世紀を目前にした今日の情勢は必ずしも明るくない。本や雑誌が企業に再生産を可能とする利益を生む商品で有り続けるかが最大の関心事である。競争原理とはいえ、ディスカウント、人件費、在庫管理費、広告宣伝費、時短によるコスト上昇によってますます利益率を悪化させている。近い将来、返品可能で在庫負担の少ない和書と同様な利益率となり、外壳にふさわしくない商品になってしまうことを危惧している。

1991年の書籍・雑誌・新聞の輸入通関統計では、4年間連続していた伸長がストップして17%ダウンとなっている。円高による修正を加えても10%近いマイナスである。バブル経済の破壊が、余り景気に左右されないと言われてきた書籍業界をも巻き込んだ結果となったことはまことに遺憾である。世界的景気後退の中で、アメリカに代表される継続的出版物の減少や、学術・専門書の落ち込み傾向は、内需で足りない分、輸出強化となって日本市場への攻撃も一段と強まるものと考えざるを得ない。またEC統合による外圧も軽視できない。このような環境を予測すると、JBIAの果たす役割と機能を見直す時期にきているのではないかと感じている。

今年は10月31日から11月4日まで書協主催の東京国際ブックフェアが開催され、JBIAも協賛者として協力を要請されている。私の個人的見解としては、いずれ共催者として参画出来る、欲を言えば主催出来るほどの実力を持つことが、国際を冠したブックフェアには求められていると思う。親睦団体としての位置から、外に向けて行動の出来る団体へと変わっていくことを、次の半世紀の課題にしたいと思う。

会員各位のご活躍、ご発展を心から祈ってやまない。」

ついで理事会報告にうつり、関根理事長代理からこの

定時総会報告	1	文化厚生委員会だより	東京の坂と橋と文明開化(函)	7
理事会報告	3	第26回麻雀大会観戦記	広 告	8
海外ニュース	3	総代理店ご案内		
洋書輸入協会史(函)	4	書籍展示会のおしらせ		

一年間の活動状況が、大要次のとおり報告された。

「世界的景気後退の中、国内景気もバブルが弾けて以来、急速な冷え込みを見せ、当業界も厳しい状況にある。

ここ一年振り返ってみれば、まず昨年秋に協会創立50周年を祝うことが出来たことである。念願のロゴマークも会員からの懸賞募集により素晴らしいものが出来、協会旗も作製した。

1月8日に催された新年懇親会は243名という空前の参加者を得て、プリティッシュ カウンシルのフィオナ・クラークさんにも祝辞をいただき国際色豊かに盛り上がった。

日米大学図書館会議への寄付要請に対しては、全般的な売上減などから慎重に検討を重ねたが、同会議の成功を願って会員各社に応分のご協力を要請した。

書協主催の'92東京国際ブックフェアへは理事会決定にもとづきブース割当に参加した。海外出版社の外国雑誌の支払いタム変更に対する改善要請、フランスの書籍船便郵便の廃止に対するフランス関係当局への再考要請、INTERNATIONAL ONLINE INFORMATION MEETING、および SPECIAL LIBRARY ASSOCIATION ANNUAL CONFERENCE への参加ツアーの実施も時宜を得た企画としてとりあげた。このように、会員全体の問題のみならず、少数の意見も必要に応じ積極的に今後とも取り上げていきたい。

事業委員会の洋書祭りは過去最高の売上を示し、外国の方々に喜ばれた。文化厚生委員会のゴルフ、テニス、釣り、囲碁、麻雀大会も年々参加数が増え、更に発展させたいとの報告をうけているが、後ほど各委員長より報告して頂く。

これからの一年は、更に行動力のある協会にしていきたいと思う。会員相互のコミュニケーションを良くし和を願って結びとしたい。」

ついで各委員会報告にうつり、総務（丸善・神田氏）、渉外（ユサコ・山川氏）ダイレクトリー（ユサコ・山川氏・東光堂・石内氏代理）、広報（第一出版貿易・佐々木氏）、事業（中央洋書・前橋氏）、会報（メクレンブルグ・鈴木氏）、経営研究・雑誌部会（日本出版貿易・杉山氏）、レブ部会（洋販・栗原氏）、文化厚生（洋販・栗原氏、東亜ブック・鶴氏）、50周年事業特別（第一出版貿易・佐々木氏）から、それぞれ活動報告および今後の方針について説明がなされた。

ついで1991年度決算報告が神田氏によりなされ、高橋氏（南江堂）、山縣氏（内外交易）の監査報告ののち、拍手で可決、承認された。

ついで神田氏より1992年度関西支部決算報告がなされ、拍手で可決承認された。

ついで選挙管理委員会（委員長、医学書院・石原氏、委員、福本書院・福本氏、海外出版貿易・田中氏、教文館・臼井氏、ナウカ・清水氏、大洋交易・和田氏、東亜ブック・鶴氏、トッパン・関野氏、UPS・上杉氏、事務局・柴田氏）により役員選挙にうつった。一時休憩ののち、石原委員長から開票結果が発表されたが、当選者は次のとおりであった。

理事	投票総数	67票	有効	65票
当選	丸	善	紀伊國屋書店	
	洋	販	極 東 書 店	
	國 際 書 房		日本出版貿易	
	U P S		中 央 洋 書	
	医 学 書 院		ユ サ コ	
	第一出版貿易			
次点	東光堂書店			
監事	投票総数	67票	有効	63票
当選	内 外 交 易	南 江 堂		
次点	丸	善		
理事（関西支部）	投票総数	12票	有効	10票
当選	緑 書 房	厚 生 社		
次点	ブックマン			
監事（関西支部）	投票総数	11票	有効	3票
当選	オーヴィス			
次点	独 亜 書 院			

総会を一時休息して新理事会が開催され、互選の結果丸善が新理事長に再選された。海老原理事長から「予算や人の問題があるが、積極的に洋書輸入協会の存在をPRしたい。また、親睦や研修の時間をとっていきたい。一つ一つ積み上げながら、厳しい環境の中、限りある時間、予算を効果的に使っていきたい。会員各位のご理解ご協力をお願いする。」との挨拶があった。

ついで、神田氏から1992年度予算案が提出され、拍手をもって可決承認された。

以上の議事が終了したのち、吉本氏（紀伊國屋書店）が閉会の挨拶にたち、「洋書輸入業が構造的に曲り角にきているのではないかと。これからは行動する協会にしたい。

コミュニケーションを良くし、主張すべきことは主張し、防ぐべきことは防いで協会を盛りたてていきたい。よろしくご協力願いたい。」旨を述べ総会を閉じた。

そのうち、恒例の懇親パーティーにうつり、ユサコ・山川会長の音頭による乾杯で宴を開き歓談のひとつをすごした。

以上



理事会報告

4月14日(火)

(一) 3月分および1992年度収支計算・予算対比表

4月9日(木)総務委員会での検討にもとづく神田俊二氏(丸善)の報告を承認した。

(二) 1992年度予算

1991年度決算をうけて、1992年度予算案を確定した。

(三) 関西支部総会報告

4月7日(火)に開催された関西支部総会において、今後正会員14社をもって支部を存続すること、および支部事務所の閉鎖他が決定されたことの報告をうけ、審議の結果諸般の事情に鑑み承認した。

(四) 役員選挙

定時総会における役員選挙は、現行の協会規約および役員選出規定により実施することとした。

(五) 事務局職員勤務規定の改正案を審議し、一部補足改正し承認した。

(六) その他

海外ニュース

景気後退が米国書の輸出を直撃
—カナダと日本が輸出減速を先導—

米国商務省の統計数字によると1991年度の米国書の輸出が伸び悩んだ。これは米国書の最大輸入国、カナダへの輸出が世界的な景気後退の影響を受けたこともあり、輸出増が輸入増をわずかに上回る結果となっている。

米国書の輸出は1990年の27%増(前年比)に比べ、1991年はわずか5%増(前年比)にとどまった(カナダを除くと12%増)。他方、海外からの米国への書籍輸入はほぼ4%増で1990年の13%増と比べはるかに低い数字となっている。

カナダへの1991年の輸出は1990年の6.65億ドルから6.44億ドルへ3%ダウン、商務省のW. ロフクウィスト氏は、その原因としてカナダの景気後退と1991年に導入した新連邦売上税をあげている。

米国書のもうひとつの主要な貿易相手国、日本への1991年の輸出は2%減で、米国の理工学書の日本市場は飽和点に達したかもしれないと同氏は推測している。その他の主要各国への輸出はインド(前年比44%減)を除き伸びを示した。

1991年の輸出の伸びの大部分はテキスト・ブックによるもので、1990年の1.28億ドルから1991年の2.42億ドルへと89%増となっている。

—P.W. 3月9日号から抜粋—

洋書輸入協会史 (70)

洋書輸入協会顧問 相良廣明

78 書籍及び定期刊行物の自動承認制包含範囲拡大の運動（第三次）…（'92年3月号よりの続き）

第三次自動承認制（A・A制）包含範囲拡大の運動は、昭和34（1959）年11月から始められた。そして翌35（'60）年1月に通産大臣宛の請願書の提出を行ったが、効果がなかった。しかし、全体的には岩戸景気の影響を受けてその後も貿易自由化、A・A品目の範囲拡大の傾向が続いているので、更にこの運動を推進することとし、再度の請願書の提出の準備に取りかかった。

78.4 通産省へ請願書の提出

昭和35（1960）年8月、1月に提出した請願書の手直しを終了、大蔵省と通産省への根廻しも出来たので、次のような文面で提出した。

記

昭和35年8月5日

通商産業大臣 石井光次郎殿

洋書輸入協会 理事長 司 忠

自動承認制輸入品目としての取扱いを要望する請願書

「カレンダー、絵はがき、クリスマスカード類および日記帳」の件

上記品目は海外にては、戦前より出版社又は書店にて販売され、取扱われて参りましたので、最近内外の人事交流の隆盛に伴い、これらを国内で要望する声が頻りとなりました。殊にカレンダーおよび絵はがきは、アルペンカレンダーの如く山岳写真を収録したものの外、名画の複製印刷を主としたものであり、印刷された絵画の性格を持つものであります。また日記帳も、Lott's Diaryなど古くから知られたもので、戦前国内書店にて取扱われていたものです。

以上につきまして、当協会会員の年間輸入希望額を調査致しました所、下記の通り集計されましたので、何卒御検討の上、自動承認制品目として御取扱い方御承認賜り度く御願ひ申し上げます。

商品整理番号	品 目	数 量	平均単価	合 計
--------	-----	-----	------	-----

890-0920	カレンダー	2,000部	\$5.00	\$10.000
----------	-------	--------	--------	----------

892-0430	絵 は が き	40,000枚	\$0.05	\$2.000
892-0440	クリスマスカード類	25,000枚	\$0.08	\$2.000
642-0310	日 記 帳	770冊	\$1.30	\$1.000
				計 \$15.000

78.5 「海外出版物の輸入について」の説明書改訂

請願書を補強する形で提出された「海外出版物の輸入について」の説明書は、以前から理事会において官庁や購入先への説明用に使用していたものを、丸善の桜井氏を中心に全面的に書き改めたものである。全文を収録したい所であるが、長くなるのでみだしのみを記しておく。

(1) 海外出版物の種類

(1)・1 発行者別

(1)・2 刊行形式別

(1)・3 内容別

(1)・4 代価別

(1)・5 大きさ、重量、装釘別

(1)・6 特殊な形態

(1)・7 語学学習用レコード

(1)・8 A・A中に書籍及び定期刊行物として登録されているもの

(2) 仕入地

(3) 取引先

(4) 注文の種類

(5) 積出方法

(6) 取引条件

(6)・1 割引

(6)・2 支払（決済）

(6)・3 委託販売方式

(7) 特殊性

(8) 通関について

(9) 返品について

(9)・1 落丁、乱丁および誤着

(9)・2 その他

昭和35年8月 洋書輸入協会

78.6 請願品目が10月より自動割当制となる。

昭和35('60)年9月6日付の通商弘報に、10月からの輸入自由化品目及び輸入自由化予定品目が公表された。その予定品目の方に、今回請願した四つの品目のすべてが掲載されていた。ただしこの四つの品目は、自動承認制品目に指定されるか、または自動割当制になるかがまだ決定されておらず、目下検討中とのことであった。

10月に入るとこれが自動割当制と決定した。これは、先ず東京通産局へ外貨割当の資金申請書を提出しなければならないが、その後の手続きは書籍などと全く同様になるものである。

78.7 自動割当制よりA・A制へ…第三次範囲拡大運動結着する

翌昭和36('61)年4月に、やっとこれらの四品目がA・A制に変更された。4月3日付JBIA No. 125では、これを次のように会員に知らせている。

記

第4回輸入公表(自動承認制)の件

昭和36年度上期の自動承認制品目輸入に関し、4月1日付輸入公表があり、4月7日より適用されます。内容は「書籍及び定期刊行物」については前回と全く変わりませんが、前期自動割当であった「カレンダー、日記帳、絵はがき、およびクリスマスカード類」はA・Aとなりました。(以下略)

この変更をもって、第三次の自動承認制(A・A制)包含範囲拡大運動は、目的を達成して結着することとなった。

思えば、昭和27('52)年4月に自動承認制に書籍及び定期刊行物が編入されて以来、その包含範囲の拡大は我々業界及び理事会の一つの悲願であった。具体的には昭和31('56)年4月から第一次の運動を始め、今回の第三次に至るまで毎年のように陳情を繰り返し、漸く今回の結着に到達することが出来た。長い間の努力であった。

79 返品とクレジットの問題

79.1 問題の顕在化

遙か以前より、問題がありながら潜ったままになっていた「返品とクレジット」の件が、一挙に顕在化した。その状況を昭和35(1960)年8月15日付、JBIA No. 108は、次のように伝えている。

記

輸入手続きについて

今般通商産業省より、最近書籍および定期刊行物の輸入について、多くの違反が見られるので、厳重に注意するよう御指示を受けましたのでお伝え致します。

具体的に指摘されました点は、輸出先にクレジットを生じることで、多くは返品などによるものと思われますが、一旦輸入決済した書籍を返品する場合には、返品を受けるもの以外は、外貨債権回収免除の許可を取得した上で代りの品を輸入し、輸出の承認を受けて返品することになっております。又、クレジットを取得して次の決済からその額を差し引く場合は、同じく外貨債権回収免除の許可を受けて、次の輸入承認証取得前に標準外決済の許可を受けなければなりません。

以上は充分御存知のことと思いますが、違反があった場合は通関も停止され、各位の輸入業務に支障を来すこととなりますから、今後絶対にかかる違反行為のないよう、手続きを慎重に行うよう呉々も御注意願います。

以前より、当協会の申請により「書籍および定期刊行物」については、関係各署の御配慮により種々特別の御措置を御承認頂いておりますので、この点も充分御認識の上よろしくお願い申し上げます。(以上)

79.2 問題発生の原因

洋書の輸入を行っていると、ある確率で必ず返本が生ずる。同じくクレジットも生ずる。この原因は種々雑多のものがあ、り、金額も僅かな額から大きな額まで様々である。また返品即クレジットではないケースも多発する。

ところが、通関の前提条件は、決済金額と通関金額が一致しなければならず、手続きがなされていないクレジットは認められていない。勿論正規の手続きを踏めば認められるが、それが極めて煩雑で、多品種少量販売の洋書の場合、日常的に生ずる返品やクレジットの処理を行うには適していない。

即ち法規論に基づく建前論と現実の間に大きなギャップがあり、これを埋めるために心ならずも潜ってしまうことが多かったというのが実情であろう。今回通産省で取り上げられたのは、東京、関西で各一社に問題が生じ、調査したところ全体的に多くの微細な違反が出て来たので、関税週報にその処置が掲載され、今後は必ず正規の手続きをさせよ、違反者からは始末書を取れということとなったが、一方では実情を認識したためか「便法を考

慮中」の旨も記載されている由である。

このような状況に対し、官庁、業界共に早急な対策を講ずる必要があった。
(続く)

文化厚生委員会だより

第26回麻雀大会観戦記 (平成4年3月27日)

・三度目の優勝

優勝は、東亜ブックの鶴さん。三度目の優勝です。準優勝は紀伊國屋の原さん。こちらも三度目の優勝がかかっていました。実は同点優勝だったのですが、幹事の独断で年齢差で鶴さんを上位にしました。

鶴さんは第3回戦は2卓でしたが、持ち前の思い切りの良さが功を奏して、大きなトップで見事に勝ちました。

・三人のベテラン健在

久々の上杉さん (UPS) 登場で、みんな喜んでいました。相変らずシブとく10位の飛び賞を取られました。麻雀大会の功労者の村山さん (ゲーテ書房) は非常に好調で、優勝争いに加わる勢いでした。同じく武田さん (洋販) も成績は今一つながら、お元氣な闘いぶりでした。

・三人の和田さん

前回優勝の大洋交易の和田さんは、今回は豪快にブービーでした。こういう性格大好きです。日ソ図書の和田さんは絶不調。さっきの和田さんの一つ下でした。もう一人の和田さんは、丸善からピンチヒッターで登場されましたが、26位と不調でした。今回は、三人の和田さんにつらい大会でした。

(E.A.記)

総代理店ご案内

ユサコ㈱

Tel. (03) 3502-6471

Fax. (03) 3593-2709

AMERICAN SOCIETY OF NEURORADIOLOGY
& AMERICAN SOCIETY OF HEAD AND NECK
RADIOLOGY

The American Journal of Neuroradiology (AJNR)
-bimonthly- <air cargo 扱い>

一書籍展示の会のお知らせ—1991年後半

マドリッド書籍展

6月24日—27日

Liber '92, Madrid,

オーストラリア書籍展

6月24日—26日

Australian Book Fair, Australia

第5回フェミニスト書籍展

6月24日—28日

5th International Feminist Book Fair, The Netherlands

アメリカ図書館協会総会及び書籍展

6月25日—7月2日

American Library Association Conference and Exhibition, San Francisco

第4回北京国際書籍展

9月2日—7日

4th Beijing International Book Fair

セントペテルスブルグ書籍展

9月3日—6日

St Petersburg Book Fair

シンガポール国際書籍展

9月5日—13日

Singapore International Book Fair and Festival of Books

第44回フランクフルト書籍展

9月30日—10月5日

Frankfurt Book Fair

ベルグラード国際書籍展

10月22日—28日

Berglade International Book Fair

東京国際書籍展

10月31日—11月4日

Tokyo International Book Fair

モントリオール書籍展

11月12日—17日

Salon du Livre, Montreal

丸善・本の図書館 鈴木陽二

「蘭学」という言葉は、大槻玄沢の『蘭学階梯』で初めて使用されたものだという。およそ蘭学を志す者でこの本の恩恵を受けない者はなかった、といわれたほど普及を見た蘭学の総合的な入門書であった。玄白、良沢に師事して蘭方医となった玄沢は仙台侯の侍医をつとめ、のち將軍お目見えにもなったが、江戸では京橋水谷町（現銀座1丁目）に「芝蘭堂」なる塾を開いて蘭学者の養成に当たった。塾生には日本で初めてのオランダ語辞書『ハルマ和解』を編纂した稲村三伯など、蘭学の発展を担った多くの人材が育っていく。また太陽暦の1月1日に蘭学者を集めて「新元会」（俗称「おらんだ正月」）を開き蘭学界の大同団結を進めた。1794年（寛政6）の第1回「新元会」を描いた絵を見ると、著名な蘭学者が一堂に会した中には蘭語辞典『蛮語箋』を編纂した森島中良（桂川甫周の弟）と思われる人物が洋服姿で椅子に座り、またロシア漂流民の大黒屋光太夫も同席しているという。テーブルにはワイン、ナイフ、フォーク、スプーンなどもおかれ、まことにハイカラで楽しげな新年宴会である。玄沢は執筆活動でも生涯を通じて2百余部といわれた多数の著述を著し、そういう彼の多角的、精力的な活動によって蘭学の振興に尽力し、偉大な足跡を遺した。今は、幕末にイギリス公使館が置かれ、攘夷志士の襲撃があったことで有名な高輪の東禅寺に彼の墓が見られる。

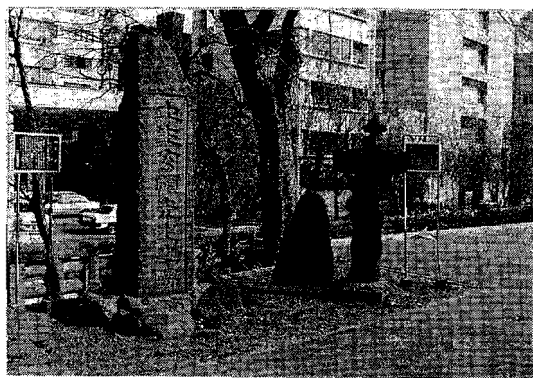
さて同じ頃、津山藩の奥医師に宇田川槐園なる人物がいた。漢方医であったのが、桂川甫周などとの交際の中で西洋医学に開眼し蘭方医を目指すことになる。それまでの蘭方医学は外科中心であったが、槐園が訳したゴルテルの内科書『西説内科撰要』18巻（1793-1810）は日本で初めての西洋内科書として画期的なものとなった。また彼の養子の玄真が著した『医範提綱』（1805-1808）は解剖学から生理学・病理学までの西洋医学を平易な文体で記したもので、当時の医学生に広く流布した教科書であった。この本には、例えば、腺、腺などのように現在確定している専門用語が多数使われているという。

大石内蔵助の孫娘を母として安芸国に生まれた土生玄碩は優れた技能を有する眼科医で、開業医として成功したばかりでなく、のち將軍家の奥医師となって浅草に屋

敷を拝領し、医者として最高の位である法眼に叙せられた。シーボルトがオランダ商館長の江戸参府に随行して来たおり、その宿舎を訪ねた玄碩は「散瞳薬」のことを聞き、その薬の処方求めたがなかなか教えてもらえなかった。そこで玄碩は將軍より拝領した葵のご紋付き帷子や小袖を贈って、ようやくその処方を習得することができた。このためのちにシーボルト事件に連座して改易・永牢（のち永蟄居）の処罰を受けることになったが、しかしこれによってわが国の白内障の手術が飛躍的に進歩することになった。今築地本願寺の境内に彼の墓と立派な記念碑を見ることができる。

シーボルトの門弟中でオランダ語を含めて一番の俊秀は高野長英であったという。シーボルト事件をうまく逃げおおせた彼は麹町平河天神の前で開業したが、1839年（天保10）に渡辺華山らと共に蛮社の獄で捕えられ永牢となった。しかし非人を買収して牢に放火させて脱獄し、故郷の水沢から鹿児島までの全国に及んだ逃避行の果て硝酸で顔を焼いて江戸に舞い戻り、青山百人町（現南青山5丁目）で開業していたが遂に幕吏に襲われ自害する。逃亡中にも医療活動を続け、また多数の著書や訳書を著し、生涯を通じて日本の曙に希望を燃やしながら幕府に抵抗した生きざまは誠に壮絶なものであった。

蘭方医として、蘭学の教育者として歴史に名を留めた偉材はまだ沢山いる。例えばシーボルトの門弟の秀才であった岡研介、將軍家の奥医師となった伊東玄朴、幕末・明治の偉人たちを育てた緒方洪庵などは紹介したい人物であるが、ひとまずここで筆をおきたい。



都旧跡「土生玄碩墓」と記念碑

5年ぶりの改訂版、好評発売中

科学技術の最新知識を全20巻に集大成

マグローヒル科学技術百科事典・第7版

McGraw-Hill Encyclopedia of
Science and Technology,
7th Edition 20vols

Editor in Chief; Sybil P. Parker

◀ McGraw-Hill
—US— ▶

第7版の特長

§21人のノーベル賞受賞者を含む3,000人の研究者による、的確な定義・記述
§7,500項目を収録

230の新項目・新しい著者が700項目を書き直し・800項目が大幅改訂
§13,000点に及ぶ図版によりビジュアル化を進める

うち2,000点が新しい図版（写真・2色刷りの挿絵・図表を含む）

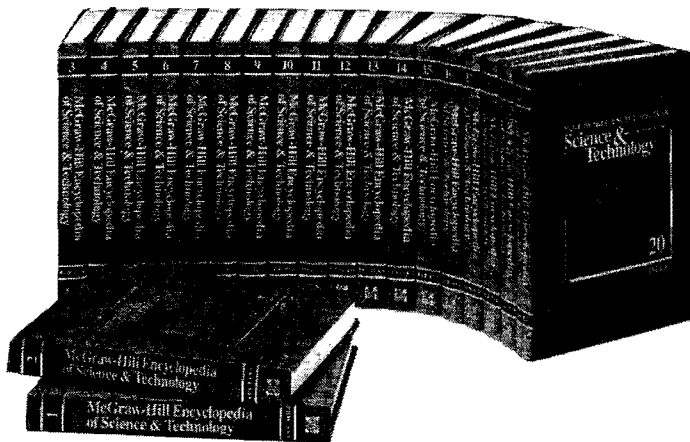
§最新の参考文献リストを収録

1992年2月28日刊行 全20巻 13,450頁

ISBN 0-07-909206-3

刊行記念特価（1992年12月末日まで） ￥340,000

通常価格（1993年1月1日より） ￥380,000



（注）表示価格は税抜き価格です。消費税を3%別途申し受けます。

日本総代理店



株式会社 紀伊國屋書店

（新館）〒156 東京都世田谷区桜丘5丁目38番1号

電話問い合わせ先

（03）3439-0161

内線444

1992年6月 通巻第301号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎（03）3271-6901 FAX.（03）3271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田2-1-18 西阪急ビル（旬録書房内）☎（06）371-5395